

平成25年度第1回平塚市地方卸売市場運営審議会 議事録

日時：平成25年（2013年）10月17日（月）午後1時30分～午後3時30分

場所：平塚市水産物地方卸売市場会議室

出席者：10人 行川一郎委員・山原栄一委員・高橋紀英委員・岡本節子委員・日比野奈保子委員・宇田川哲由委員・梅原勝之委員・土井博泰委員・片倉栄一委員・高橋裕委員

開会

1 産業振興部長あいさつ

2 議題

(1) 副会長の選出について

互選の結果、副会長に山原栄一委員が選出された。

(2) 平成24年度市場の取引状況について

〈事務局〉（平成24年度市場の取引状況について説明）

〈委員〉（質問等なし）

(3) 第65期 株式会社 平塚魚市場の決算報告について

〈委員〉（第65期計算書類について説明）

〈委員〉 会社経営につき、今後の見通しはどうか。

〈委員〉 コストカット等の努力をして、利益が出る見込みである。

(4) 買受人公募再開後の状況報告について

〈事務局〉 公募を常時行う形で再開したが、応募者はまだ来ていない。広報ひらつかへの再掲載を検討している。

〈委員〉 どういう方を対象として増やしたいと考えているか。

〈事務局〉 いわゆる魚屋のほか、飲食店も増えていくことを目指している。

〈委員〉 平塚新港の水揚げされたものは平塚魚市場にあまり来ていないように感じる。状況をライブカメラで中継できないか。

〈事務局〉 平塚市漁業協同組合のホームページで配信している。

〈委員〉 市場の者が荷捌き施設で状況確認をしているが、量が多い場合等は他の市場へ転送されることは、よくある。

〈委員〉 地元の水揚げされたものを100%消費できない状況はあまりよくないものである。生産者は高い値段が付く所へ転送することは当たり前であ

り、平塚魚市場が活発化することで、地元の消費を増やしたい。

〈委員〉 平塚市以外にも近隣の伊勢原市や秦野市等の魚屋で小田原や横浜の市場で買っている所もあると思われる。

〈委員〉 まずは、平塚の市場での取引が増えることを狙いとするため、買受人の公募を行っていくとする。

〈委員〉 異議なし。

(5) その他

〈委員〉 放射能について食の安全はどのようにお考えか。

〈委員〉 市場に来るものは、調査済みであるので安心していただきたい。

〈事務局〉 放射能検査については生産地の都道府県の役目であり、消費者の側から魚屋へ安全確認するような関係作りや、地元のもの欲しい等の声をかけていただければ、地元の水産物の消費を増やすことにつながる。そのような関係を作れる魚屋という形態の強みをアピールする調理教室も行っている。

〈事務局〉 神奈川県では定期的に生鮮食品の放射能検査を行っている。ほとんどは機械の検出限界値以下の数値となっている。県ホームページで確認が可能である。

〈委員〉 産地が表示されていても、それが気になって買えない者もいると聞いた。そのような安全性アピールの情報提供をしていただきたい。

〈事務局〉 分かりました。

〈委員〉 市場の見学や魚屋の料理教室を通して、水産業の理解が深まった。今後とも続けていただきたい。

〈事務局〉 続けていきたい。

〈委員〉 親が魚介類を嫌うと、子ども嫌ってしまう。また、社会全体で食生活が多様化していることで魚介類の消費が減少してしまっていると感じる。肉も悪くないが、子どもが魚介類を食べる環境を作っていきたい。

〈事務局〉 ふれあい給食を続けて、子ども達へのアピールを続けたい。

〈委員〉 市場の新商品「しらすの佃煮」を作った。魚屋と協力して作ることはあるが、同じ味を作り続けることの難しさを感じている。今後は平塚魚商業協同組合の店舗に少しずつでも置いていく運動をしたい。

〈委員〉 一般の方の反響はどうか。

〈委員〉 先日の湘南ひらつか囲碁まつりで試験的に販売をしたが概ね好評であった。比較的長持ちし、味も子どもが食べられるようなものである。

〈事務局〉 市場には、保健所の許可が下りた施設があるので、衛生基準はクリアしている。あとの問題は、加工品を作る上で味の均一化のためのレシピ作

成と賞味期限がある。市も協力が可能である。

〈委員〉 誰が作っても同じものができるレシピにする必要がある。協力しあって作成していきたい。

閉会